

平成 28 年度日本放射線技師連盟第 5 回理事会
議事録

日時：平成 28 年 7 月 31 日（日）12 時 45 分～14 時 00 分

場所：日本診療放射線技師会事務所講義室
（東京都港区浜松町 2-4-1 世界貿易センタービル 31 階）

出席者：

理事：中澤靖夫（理事長）、篠原健一（副理事長）、佐野幹夫（副理事長）、畦元将吾（副理事長）、江田哲男、小川 清、北川明宏、熊代正行、小林一郎、轟 英彦、中澤洋治、吉浦隆雄

委任状出席者：井戸靖司、小田正記、橋本 薫

指名出席者：

JART 企画委員会委員：横田浩、山本英雄、清水操
事務局：木村由美、野村俊正
あぜもと事務所：佐藤帰一郎

欠席者：

理事：大塚 亨、児玉直樹、富田博信、板東道夫、監事：田城邦幸、播間利光

<議事>

1. 第 24 回参議院議員選挙の結果について【資料】

医療職立候補者（理学療法士：小川かつみ氏、臨床検査技師：宮島よしふみ氏）と比較して、各都道府県におけるあぜもと将吾の得票数と JART 会員数を資料とした。JART 会員数を得票数が上回った都道府県は、23 都府県しかなかった。鋭意努力したが前回より 9,000 票増加しただけであった。

敗因について（意見）

- ・候補者の名前が浸透していない。特に若い会員。
→知ってもらうにはどうしたらよいか。
- ・個人演説会などを開催しても、いつも同じ顔触れの参加であった。
→それ以外の人はどうアプローチするか。
- ・選挙はがきが届いていないようだった。重複して送られてきた。
→（畦元副理事長より）
15 万枚すべて発送した。発送料も支払っている。届いていない理由は分からない。名簿は 15～20 万人分あった。
重複を確認する作業は労力が大きい（重複チェックは 50 人ほどの体制が必要）。
- ・政策のポイントが分からなかった。伝わらなかった。
- ・若い人が投票に行っていない。
- ・学生は住民票を移していない人が多く、実家に帰って投票できていない。
- ・候補者名を書くということが伝わっていなかった（政党名を書いた人が多い）。
→候補者名を書くということをどう浸透させるか。

- ・政治の話をするとう拒否反応を示される、特に公立施設。
- ・各地域の技師会の役員も一枚岩でなかった。
- ・広島県議の協力者が多すぎて、あまり動いていなかったようだ（誰かがやるだろう）。

2. 今後の戦略について

(意見)

- ・票につながる票を集める。100万人の名簿が必要。
- ・連盟の会員数を増やす。
 - 最低でも JART 会員の半分は連盟の会員にならないといけない。会員一人が 10 名の確実な票を確保する。
 - 会費が無料であれば集まるのではないか。歯科技工士連盟は寄附のみ。
 - 無料であればよいというものでもない。
- ・他の医療職の議員が選出されたことで、診療放射線技師は危機感を持たないといけない。診療放射線技師職の将来について。
 - 会員に理解していただくための活動、会員の意識改革、学生への教育

↓

(会としてどうするか)

- ・3年後に候補者を選出するのは難しい。
- ・6年後を目指し、原点に立ち返りやり直す。
- ・3年かけて、会員数を増やす。
 - 目標 1 万人 (2 年後の山口学術大会までに)、来年度の北海道学術大会までに 5,000 人を目指す。
- ・本会ならびに各都道府県技師会会長が政界へ診療放射線技師を進出させる必要があるという「方針」を会員に伝える。メリットデメリットではなく「志」である。
- ・各支部長が連盟の存在価値を会員に周知徹底する。
- ・技師会と連盟が一体になって活動していく。連盟と技師会は表裏一体。
- ・連盟主催のイベント、もしくは連盟・技師会主催のジョイントイベントの開催など。

3. その他

①畦元副理事長より、理事辞退の意向が伝えられ、承認された。また以下の報告があった。

- ・広島県支部には名前がまだ残っている。今後動きがあったら、相談させていただく。
- ・NPO を設立しようと思っている。

↓

連盟としては、あぜもと氏を応援することは白紙に戻す。

②年会費の再請求を事務局より行う。

③JART 全国会長会議 (9 月 17 日開催予定) にて、各都道府県技師会の役員には連盟に入会していただくようお願いする。

④今後のスケジュール

—9月17日(土) JART 全国会長会議時に次回理事会開催予定

以上